

ていったが、宇治に於てはやはり農業という、産額、栽培面積ともに非常に少いにもかかわらず、依然として伝統的な茶の依存度が一番大きく、新興地域に量より質で対抗し、高級茶（特に宇治市は碾茶（抹茶）の生産に力を入れてきたが、昭和30～33年をピークに都市化の波と同時に荒廃茶園の増加などにより茶園は減少しつつある。地形と茶園の関係は、地形と地質、茶園と土壌との関係から当然ここでは地形との関係は密接になり、茶園分布は洪積地に密になっている。しかし、茶種の点から地域区分すると4つの地区に区分でき、しかもその区分は地形区分とほぼ一致する。即ち、山間では宇治独得の覆下園が不可能な為煎茶が中心となり、平地に移るに従い玉露から碾茶へと変わってくる。茶業経営内部の問題としては、茶園の減少と共に問屋兼荒茶工場主に茶園が集中する傾向にある。

巨椋池は、昭和8～16年の干拓事業により約2,000町歩の美田と化し、主に水田単作地としてこの地域の穀倉地帯をなしてきたが、昭和38年以後この干拓田にまで住宅地が入り込み新開地の様相を変えつつある。

この地域の都市化は、ここ2、3年京都市の都市圏の拡大により、府内でも特にめざましく、茶園の多い洪積台地が居住地の適地と一致したが為、茶園が都市化の波を乗り越えきれず減少してゆき、しかも時期を少し遅くして、洪積丘陵、干拓田へと宅地化は進出し、京都市のベッドタウン的性格をますます濃くしてゆく状態にある。

埼玉県東松山市周辺の地理学的考察

上野延子

調査地域は、埼玉県のほぼ中央部にあって東京都心部より約50Km、池袋から東武東上線で1時間の所にある。いわゆる「首都圏」なるものに含まれており、「市」であるものの、今だかなり農村的色彩の強い地域である。本地域を地理学的に解剖するにあたって、以下の項目を設定した。

第一章 調査地域概説

第一節 自然環境（位置、気候、地形、地質）

第二節 人文環境（歴史、交通、産業）

第二章 地 形

第一節 地形区分の基準

第二節 各地形面細説 — 丘陵、台地、段丘、

第三節 丘陵上砂礫層について

第三章 農 業

第一節 農業の現状と変化

第二節 養 蚕 業

第三節 本市農業の性格

第四章 都市化（工業化，都市的土地利用の進出）

第五章 要 約

本地域は、南北を高度20～100mの“比企丘陵”に囲まれた“洪積台地”及び荒川の支流である都幾川、市の川によりつくられた“沖積地”より成る地域である、丘陵及び台地上には、関東ロームが被っているが、関東平野中央部に位置し、火山灰供給源から遠い為、その被覆は薄く、(1～2.5m)、またローム対比の示準物も欠いている。地形区分は、主として、高度開析度の点から行い(ロームの有無も)丘陵を2面、台地を2面、段丘を2面に分類し、その他、山地、沖積低地、自然堤防、河原とした。

当市は、昭和29年、折からの町村合併運動に沿って、旧松山町と付近の4村が合併して出来た新しい市である。市発足当時は、農業従事人口が55%を占め(全国41%) 専業農家の比率も全国平均をはるかに上回り、完全なる農業都市であったが、昭和34～35年を境に、市域内部への工場進出が著くなり、産業構造は大巾に変革し、農業と並んで、工業の重要性が増した。(昭和38年、農業従事人口38%、製造業従事人口37% — 同年全国平均第一次28%、第二次31%) また兼業農家も増大したが、①第一兼業が多い事、②経営規模5反～15反の中農が多い事、③耕地面積の減少が少ないこと、④農業生産額は年々増加し、全国平均をかなり上回っている事 — 等、以上の点から、本市では、従来の“農業一本やり”からの脱皮が行われつつあるものの、農業への意欲をかなり持っており、重要な一産業部門となっていると言えよう、農業の内容そのものも変質しつつあり、従来の米、麦、養蚕形式に、蔬菜、落花生、畜産、果樹部門の導入がはかられ、多角的・近郊的農業になりつつある。

地域の都市化は、道路交通の便、都心部へ1.5時間、広大な平地林、丘陵、余剰労働力等に恵まれて、工業化の面と、住宅地、ゴルフ場等の進出の二面からとらえる事ができる。工場の進出は、昭和34～35年以降に顕著なものがあるが、この地域では、デーゼル機器(株)という輸送用機械器具製造業が核となっているのが特徴であって、工場数の21%、従業員数の69%、生産額の74%をこの種の工業で占めている。(製品が軽く、用水型工業でない為本地域に適している)工場が、道路沿いの台地に立地しているのに対して、住宅地、ゴルフ場は丘陵に立地している。共に、

農地の荒廃が少ないのが特徴となっている。

千葉県安房郡東部の地形と土地利用

岡野原 初 瀬

I 序 論

第1章 房総半島に於ける調査地域の概観

第1節 自然概観

第2節 人文概観

II 本 論

第1章 地 形

第1節 地形の概観

第2節 地質的特徴

第3節 地形分類

第4節 地 じり地形

第2章 農 業

第1節 農業地域

A 統計による農業地域区分

B 各農業地域の特色

(1) 花卉+(水稻)地帯

a 花卉栽培

花卉栽培の現状

高等園芸と露地栽培

花卉部門と酪農部門の結びつき

b 漁業と農業の関連

(2) 酪農+水稻+(その他)地帯

(3) 水稻+(酪農)地帯

(4) 水稻+酪農地帯

注:()は従作物

地 じり土地利用

地 じり地に於ける集落立地